



CONTENTS

- [View of This issue]
- 01 新たな発想を、地方から。
●副学長 | 児玉克哉
- 02 [M's REPORT]
- 03 三重大学特別講演会
「グローバル化と日本」
～若き世代の柔軟な知力、豊かな構想力、
そしてエネルギー的な行動力に期待～
●株式会社 東芝 取締役会長 | 西田厚聡
- 07 三重大学生協同組合創立40周年記念
C.W.ニコル講演会
人と自然との共生を語る
●作家、環境保護活動家、探検家 | C.W.ニコル
- [RESEARCH FRONT]
- 12 これまでの日本人の生き方を探究し、
私たちの生き方を考えていく。
●人文学部教授 | 遠山 敦
- 14 「ぎじゅつりこく日本」というものが
あったらいい…と、ならないために。
●教育学部教授 | 松本金矢
- 16 「生物のひかり」を探求し、
「化学のひかり」の創生に挑む。
●大学院生物資源学研究科教授 | 寺西克倫
- 18 手書き文字から生体情報まで、
視覚パターン情報処理の研究をリード。
●大学院工学研究科教授 | 木村文隆
- 20 疾患の遺伝因子の解明を進め、
個別化医療の実現を目指す。
●生命科学支援センター教授 | 山田芳司
- [CLOSE-UP Interview]
- 22 すべての人からからだへの負担が少ない
画像診断検査を提供したい。
●医学部附属病院准教授 | 佐久間 肇
- [連載] CHRONICLE OF MIE VOL.8
- 24 【文学編】三重ゆかりの推理小説家江戸川乱歩。
●人文学部教授 | 尾西康充
- 26 【美術編】「築(やな)」
●教育学部教授 | 山口泰弘
- [三重大学の目指す社会連携⑥]
- 28 三重大学地域戦略センター(RASC)
地域の課題解決を担うシンクタンクとして、
全学で活動を展開。
- 29 TOPICS
- 32 2011年1月～8月 三重大学の主な出来事



新たな発想を、地方から。

副学長
児玉克哉

社会学では、社会システムにおける権力との距離を表すものとして「中心 (Center) - 周縁 (Periphery)」という概念を使います。もともと、「中心-周縁」という区別は、中心に宮廷や寺院が位置し、それを官僚や貴族の居住地区が取り囲み、さらにはそれらを商人、職人、農民という周縁が取り巻いている、古代都市などに見られる階層構造をモデルにした概念でした。地理的な距離というよりも、権力からの距離が重要なのです。今日の社会学ではさらに定義を細かく分類し、「中心の中心」「中心の周縁」「周縁の中心」「周縁の周縁」などと分けました。

私が興味深いと思うのは、これまでの歴史で多くの社会改革は、「中心の周縁」「周縁の中心」から生まれてきたということです。「中心の中心」にいる人は基本的に現状維持を志向しますから、秩序の安定に興味を持ちます。「周縁の周縁」の人は、改革のための手段や知識を持ち合わせません。ですから、中心からやや離れながらも、改革への意欲を持ち、またそのための手段や知識を持っている層から改革は起こってくるのです。三重大学は国立大学法人であり、優れた人材を持っていますが、旧帝大のグループではなく、中心からはやや離れます。しかし、このポジションが、社会を改革しようという新たな発想と意欲を生じさせます。今、日本は大震災の後を受けて、これまでの価値観や社会制度とは異なった新たな発想が求められています。社会学の理論からすると、それは「中心の中心」の人や大学からではなく、三重大学のような地方大学から出される可能性が高いのです。

今、三重大学は、環境先進大学として全国の先頭を走ろうとしており、産官学連携においても、他大学の先を進みつつあります。これまでの既成概念にとらわれず、新たな社会づくり、地球づくりに挑戦しようという息吹が芽生えはじめています。こうした息吹を少しでも伝えることができれば、望外の幸せです。

こだまかつや
社会学博士
専門分野は、地域社会学、
市民社会論、NGO論、国際平和論

